

## 『エッセンシャルガイド 統一英語点字 UEB で何が変わるか』の UEB 規則改訂に伴う内容変更

日本ライトハウス  
点字情報技術センター

ICEB（国際英語点字協議会）は2019年10月8日、コーテーションマークとアポストロフィに関する UEB の規則改訂を発表した。

これに伴い、『エッセンシャルガイド 統一英語点字 UEB で何が変わるか』（福井哲也著、2015年、日本ライトハウス）で解説した内容が、以下のとおり一部変更となる。

1章Eの記号表（p.15）と3章17節の記号表（p.111）に掲載した記号のうち、次のものの名称が変更された。

### 【新しい名称】

⠠～⠠	“ ”	ダブルコーテーションマーク
⠠⠠～⠠⠠	‘ ’	シングルコーテーションマーク
⠠⠠～⠠⠠	“ ”	2マスのダブルコーテーションマーク
⠠⠠～⠠⠠	« »	ダブルアングルコーテーションマーク

E-2（p.16）に記述したコーテーションマークの用法が、一部修正となる。

コーテーションマークは、墨字の形に従い、ダブル（“”）は ⠠～⠠、シングル（‘’）は ⠠⠠～⠠⠠ で表す。（墨字の形にかかわらず、最も使用頻度の高いコーテーションマークを1マス記号の ⠠～⠠ で表すという規則はなくなった。）

引用の中にさらに引用がある場合、アメリカでは外側にダブルコーテーション、内側にシングルコーテーションを使うことが多く、イギリスでは逆に外側にシングル、内側にダブルを使うことが多い。

[例] “Uncle sang ‘Hey Jude,’” Sue wrote.

(「おじさんが『ヘイ・ジュード』を歌った」とスーは書いた。)

□ □ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

‘Uncle sang “Hey Jude,”’ Sue wrote.

□ □ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

外側にシングル、内側にダブルのコーテーションマークが使われている文章は、文章全体にわたりシングルとダブルの点字記号を入れ替えて点訳することが許容される。このようにしたときは、点訳書凡例等で説明するとよい。

[例] ‘Uncle sang “Hey Jude,”’ Sue wrote.

□ □ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

17-6 (p.116) に記述したコーテーションマークの用法およびアポストロフィとの使い分けについて、いくつかの点で変更がある。

(a) 前述のとおり、ダブルコーテーションマーク (“”) は ⠠⠠~⠠⠠、シングルコーテーションマーク (‘’) は ⠠⠠⠠⠠~⠠⠠⠠⠠ で表す。ただし、イギリスの書物でよく見られるように、主要なコーテーションマークにシングル、二次的なコーテーションマーク (引用の中の引用など) にダブルが使われている場合、文章全体にわたりシングルとダブルの点字記号を入れ替えて点訳することが許容される (その旨点訳書凡例等で説明するとよい)。コンピュータの自動点訳ソフトは、ダブルとシングルの点字記号の割り当てをオプションで指定できるようにすることが推奨される。

また、ダブルアングルコーテーションマーク (イタリアンコーテーションマーク) («») は ⠠⠠⠠⠠~⠠⠠⠠⠠ で表す。

(b) 向きのない (開きと閉じが同形の) ダブルコーテーションマーク (") ⠠⠠⠠⠠ およびシングルコーテーションマーク (!) ⠠⠠⠠⠠ は、次のような比較的稀な場合にのみ用いる。

- それを、向きのある (開きと閉じが異なる形の) 記号と区別して論じられる場合 (活字の書体に関する記述など)
- それを明確な意図を持って使われている場合 (コンピュータの文字コード表やプログラム言語など)



（“To be or not . . . ”）

（「生きるべきかそれとも…」）

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

これらの処理は当該箇所のみで行うもので、文章全体の書き方には影響しない。

《備考》本来、コーテーションマークとその内側の句読符との間にスペースは不要である。その意味で上記2番目と3番目の例はかなり特殊なケースといえる。たとえ墨字でスペースがあいていたとしても、詰めて点訳する処理も可能であろう。そうすれば1マスのダブルコーテーションが使える。

（e）ダブルコーテーションの開き記号の直前に1級指示符があると、≡ ≡ ≡ は疑問符(?)と読めてしまうので、ダブルコーテーションの開き記号は1級指示符の前に置く。

[例] “Y-M-C-A”

≡ ≡

《備考》これまでの規則には、Y-M-“C”-Aのように、1マスのコーテーションの開き記号を1級指示符の前に置くことが不可能な場合は、該当する2マスのコーテーションマークを使用するとの規定があったが、この度の改訂で削除された。

（f）稀なケースであるが、シングルコーテーションの開きまたは閉じ記号、あるいは向きのないダブルコーテーションマークが「単独」の場合、≡ ≡ ≡ は His、≡ ≡ ≡ は Was、≡ ≡ ≡ は Were と読めてしまうので、これらの記号に1級記号符を前置する。

[例] Put the ' at the end of a quote.

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

Use the " to enclose filenames.

（ファイル名を囲むのにコーテーションマークを使いなさい。）

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

（ . . . that is the question. ）

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

（“To be or not . . . ”）

□ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ □ ≡ □ ≡ ≡ ≡ □ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

（上記3番目と4番目の例については、（d）の備考参照。）